

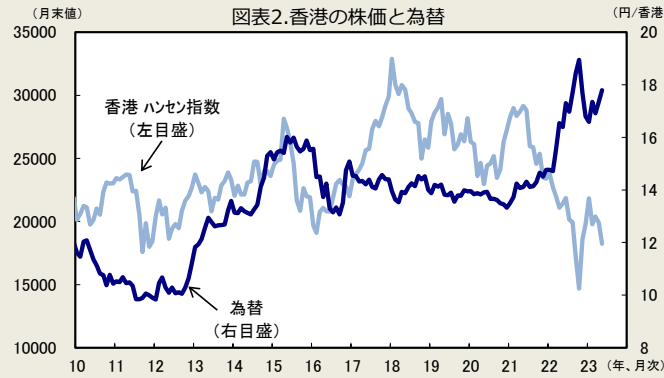
アジア経済の現状と見通し : 2023年 6月

中国、香港、シンガポール

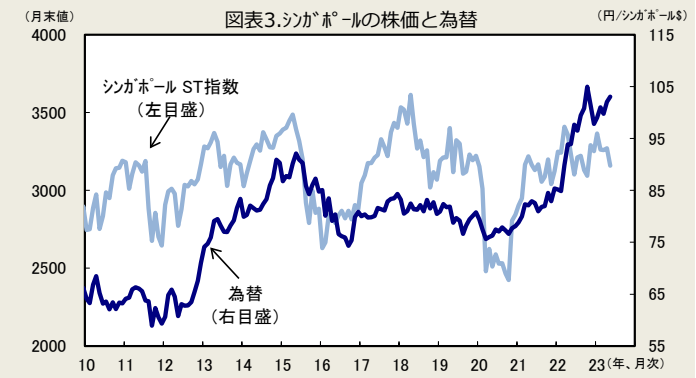
中国は、輸出の伸びや製造業の景況感などが低調となっており、経済成長率(実質国内総生産(GDP)増加率)は当面、伸び悩む可能性があります。とはいえ、政府による今年の成長率目標(5%前後)を達成すべく、財政政策や金融政策を用いた景気対策が今後柔軟に検討されるとみられることなどから、景気の極端な悪化は避けられる見通しです。**香港**は、小売売上高は堅調な伸びを示しており景気拡大基調が続く見通しですが、米中の対立懸念などが株価の重しとなる場面もありそうです。**シンガポール**は、中国経済から大きな影響を受けるため、当面、中国の景気減速が懸念材料となりそうです。



(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



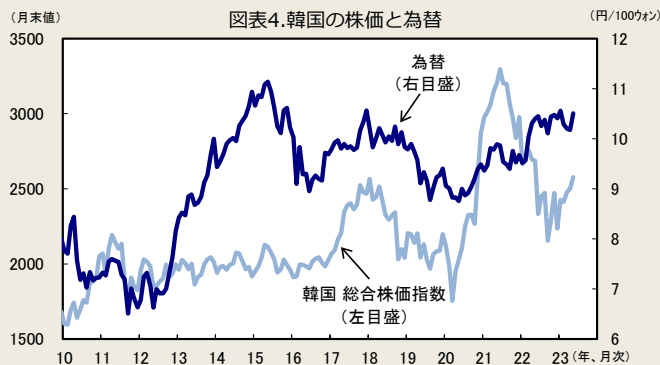
(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



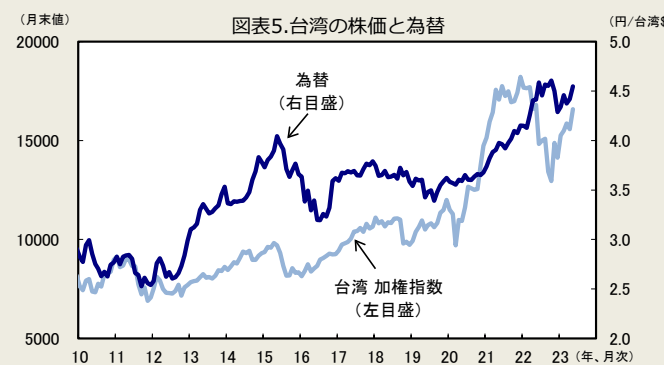
(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

韓国、台湾

韓国は、失業率の低下などが景気を下支えする見通しですが、輸出は低迷しており、今年は低めの経済成長率にとどまる見込みです。**台湾**は、インフレが徐々に鈍化すると見込まれることは景気の好材料ですが、輸出や製造業景況感の伸び悩みは当面継続しそうです。



(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

● アジア金融市場の見通し

(株式) アジア株は当面、上値の重い動きが予想されます。アジアの多くの国は低調な輸出などのため、当面、緩やかな経済成長にとどまりそうです。中国景気をめぐる不透明感も踏まえると、株価の上値を追いくい状況となりそうです。とはいえ、インフレの鈍化を受け総じて金融引締め姿勢が和らいでいることなどが、株価を下支えする見通しです。

(為替) アジア通貨は当面、対米ドルで方向感の乏しい動きを示す見通しです。米国の金融政策に関する不透明感が大きい中、為替の一方的なトレンドは想定しにくい状況です。日本の金融政策についても不透明であるため、アジア通貨は対円で方向感の出にくい相場となりそうです。

(金利) アジアの長期金利(残存期間が長めの国債の利回り)も当面、方向感の乏しい動きが予想されます。世界景気や米国の金融政策をめぐる不透明感などを踏まれば、投資家の慎重姿勢が続くと見込まれます。

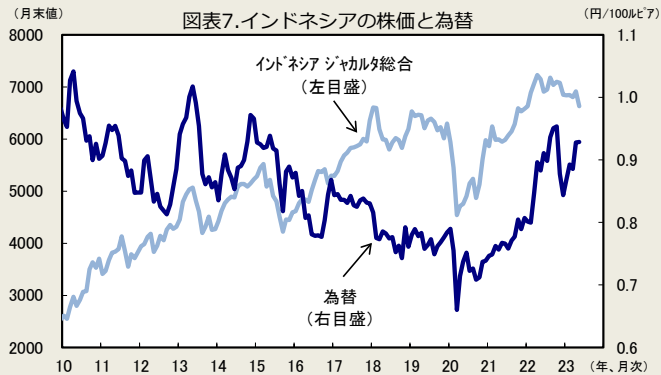
アジア経済の現状と見通し : 2023年 6月

タイ、インドネシア、マレーシア

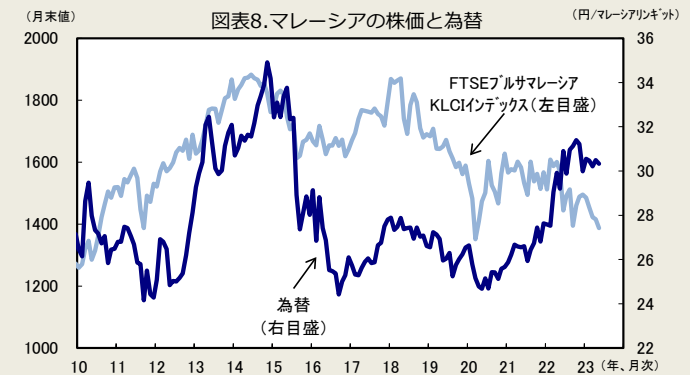
タイは、外国人観光客の増加が景気拡大を支援するとみられる上、インフレの鈍化も好材料となりそうですが、物品輸出の伸びは勢いを欠いており、経済成長率の急上昇は当面見込みにくい状況となりそうです。**インドネシア**は、個人消費はおおむね堅調な推移が見込まれるものの、輸出や設備投資などは当分の間、緩慢な伸びにとどまると予想され、経済成長を圧迫する見通しです。**マレーシア**は、1-3月期の経済成長率では景気の底堅さが確認されましたが、輸出は低調な推移が続いており、今年の経済成長率は昨年の成長率を明確に下回る可能性が高いとみられます。



(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



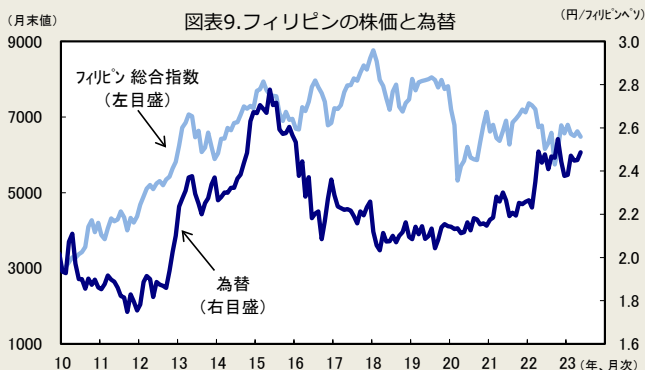
(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



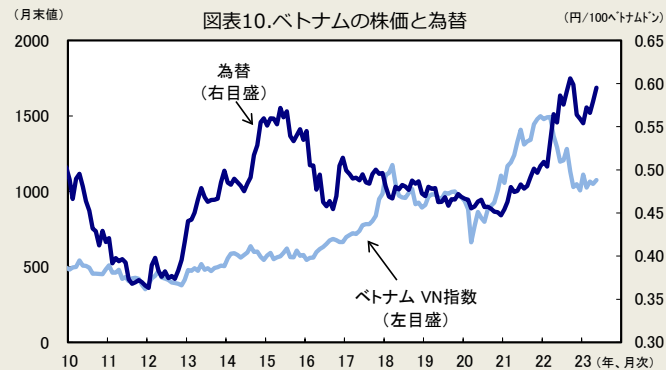
(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

フィリピン、ベトナム

フィリピンは、利上げの停止やインフラ投資などが当面の景気を下支える見込みですが、輸出の停滞が経済成長を抑制しそうです。**ベトナム**は、1-3月期は低めの経済成長率となりましたが、利下げやインフラ投資が今後の景気拡大を後押しする見通しです。



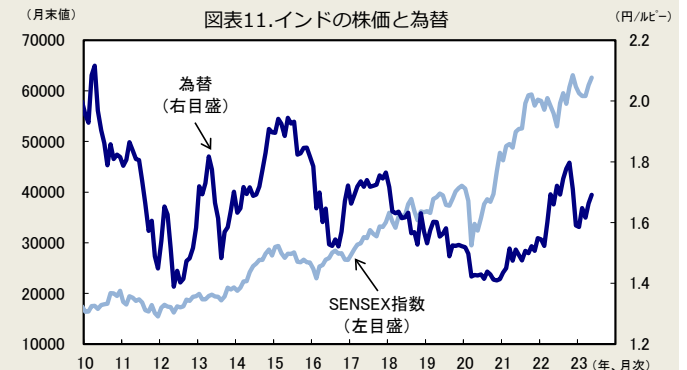
(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

インド

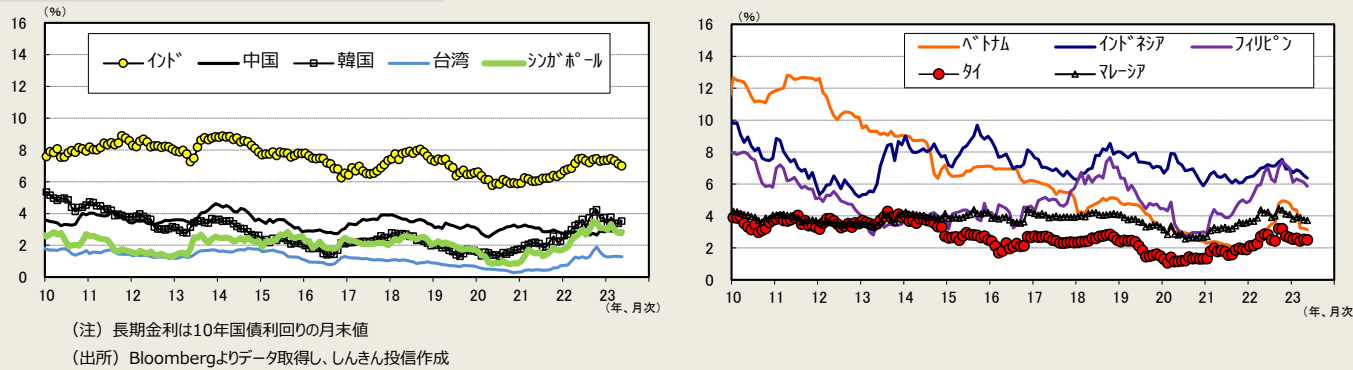
インドは、インフレは鈍化しつつあるものの、鉱工業生産の伸びは緩慢であり、当面の景気は緩やかな拡大にとどまりそうです。



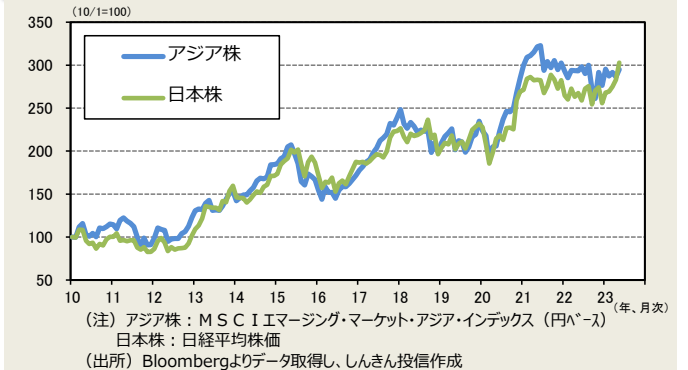
(注) 直近は2023年5月末値
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

アジア経済の現状と見通し : 2023年6月

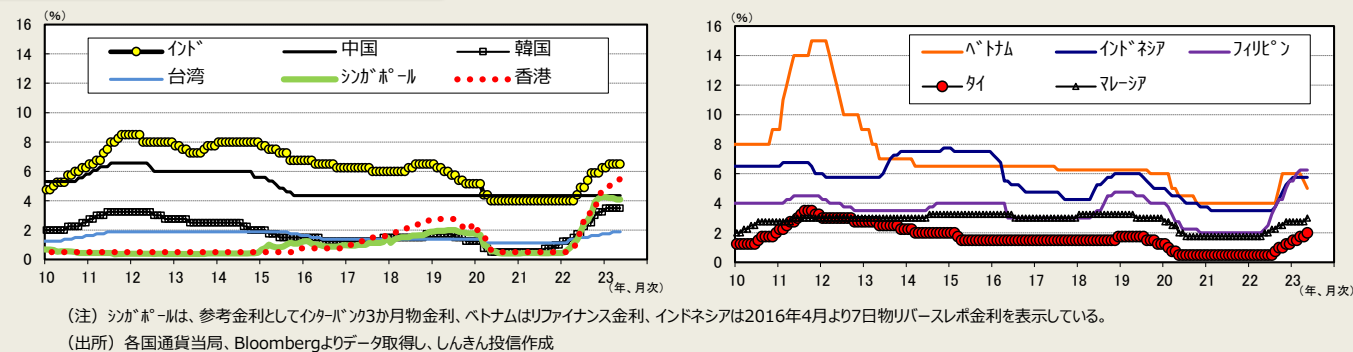
図表12. アジア各国・地域の長期金利



図表16. アジア株と日本株



図表13. アジア各国・地域の政策金利

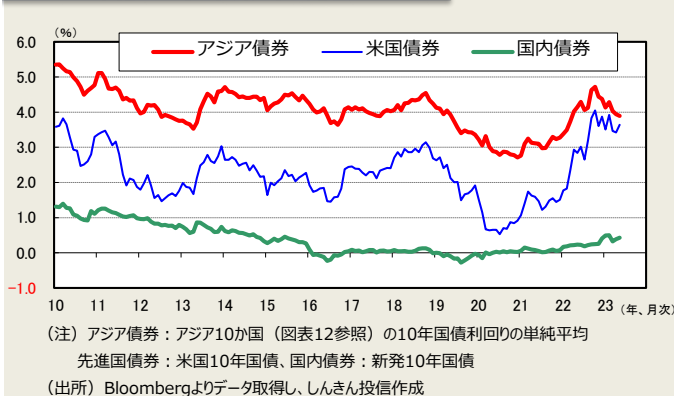


図表17. 東アジア各国・地域の経済見通し

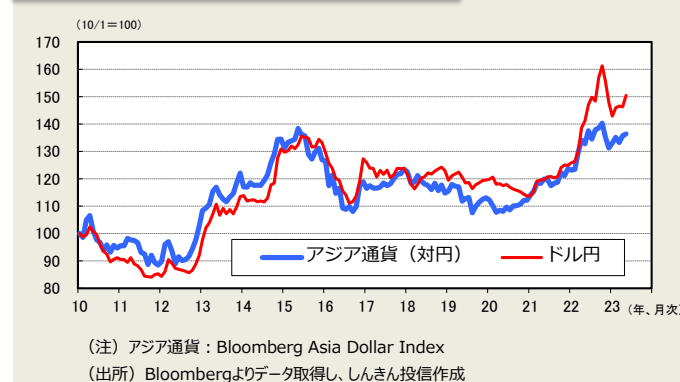
	①実質GDP成長率			②インフレ率 (前年比、%)		
	2022	2023 (予)	2024 (予)	2022	2023 (予)	2024 (予)
中国	3.0	5.2	4.5	2.0	2.0	2.2
NIEs						
韓国	2.6	1.5	2.4	5.1	3.5	2.3
台湾	2.4	2.1	2.6	2.9	1.9	1.7
香港	-3.5	3.5	3.1	1.9	2.3	2.4
シンガポール	3.6	1.5	2.1	6.1	5.8	3.5
ASEAN						
タイ	2.6	3.4	3.6	6.1	2.8	2.0
インドネシア	5.3	5.0	5.1	4.2	4.4	3.0
マレーシア	8.7	4.5	4.5	3.3	2.9	3.1
フィリピン	7.6	6.0	5.8	5.8	6.3	3.2
ベトナム	8.0	5.8	6.9	3.2	5.0	4.3
インド	7.2	5.9	6.3	6.7	4.9	4.4

(注) インドは年度データ (4月~翌年3月)
 実績はBloomberg、斜体数字は国際通貨基金 (IMF) の予測
 (出所) Bloomberg、IMFよりデータ取得し、しんきん投信作成

図表14. 債券利回りの比較



図表15. アジア通貨とドル円



(2023.6.6 チーフエコノミスト 辻 佳人)

<本資料に関してご留意していただきたい事項>

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

◆ご購入時の費用…購入時手数料 上限3.3%(税抜3.0%)

◆ご換金時の費用…信託財産留保額 上限0.3%

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

◆運用管理費用(信託報酬)…純資産総額に対して、上限年率1.628%(税抜年率1.48%)

◆その他の費用…監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。